

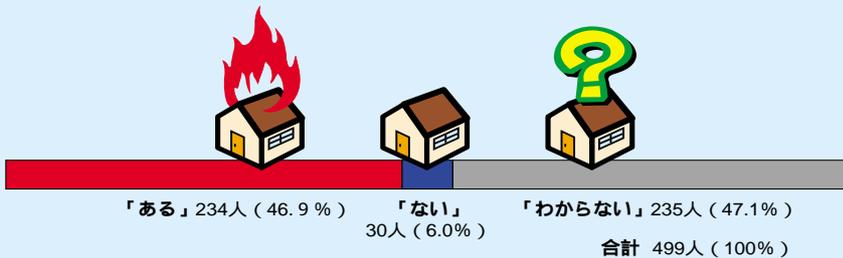


防火対策が備わる郡上八幡の水屋

「第11回 水にかかわる生活意識調査」から 「消防と水」

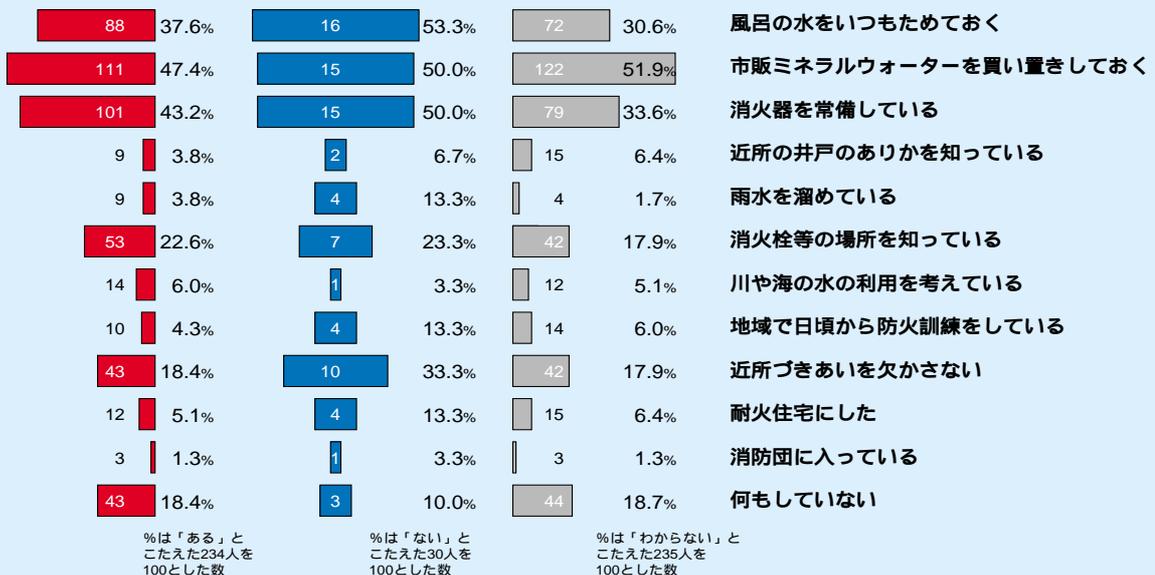
当センターでは、毎年6月に「水にかかわる生活意識調査」を東京、名古屋、大阪の約500名を対象に実施し、7月に結果を公表しています。これまでの10年間の調査結果はセンターホームページでご覧いただくことができます。ここでは、最新の調査結果から、「消防と水」に関する項目についてご紹介いたします。

Q 「大地震が起きたらあなたの自宅は火災に遭う可能性ありますか？」



「ある」と「わからない」がほぼ拮抗しています。「わからない」と答えている人が半分近くいるのです。

それでは、「火災に遭うと思っている人」「遭わないと思っている人」「わからないという人」、それぞれのグループで、「普段の備え」は異なっているのでしょうか。



火災に遭うから、備えをするとは限らない？

興味深いのは、大地震が来たときに「火災の危険がある」と答えている人と「わからない」と答えている人が、備えに対してはほぼ同じ傾向を示している点です。この2つのグループは「火災の危険があるから、備えよう」「火災の危険がわからないから、備えようがない」というのではなく、どちらも「まあわからないけれど火災も出るだろうな」という程度のリスク感覚であることが推測されます。

これに対して「火災に遭わない」と答えている人は数が少ないながら、「遭う」「わからない」という人とは傾向が異なります。特に「日頃から地域で防火訓練をしている」「近所づきあ

いを欠かさない」という「人のつきあいによる助け合い対策」を行なっている人が、多いとは言えないまでも、他に比べて高い比率を示しています。「火災に遭わない」と答えている人は備えをしている率が高く、リスクに敏感に対応しているのかもしれない。

7月に発表した「第11回水にかかわる生活意識調査(2005年)」の内容は、当センターホームページでもご覧いただける予定です(<http://www.mizu.gr.jp/>)